

教科・科目		教科書
美術 I		高校生の美術 I（日本文教）
学年	単位数	使用教材
I 年（文理・基礎）	2	副教材、教師作成のテキスト・ワークシート
科目の概要と目標	美術の幅広い創造活動の体験によって、美術を愛好する心情を育て、感性を高め、美術文化についての理解を深める。鑑賞の活動では、美や創造の面白さ、人々の生活や願いなどを感じ取る能力などを育成する。	

学期	学習内容（単元等）	到達目標
I	オリエンテーション 「美術とは何か」	小・中学校での図画工作・美術の学習を振り返り、自分の心情を見つめたり、自分の考えに気づいたりして、「美術」の学習のイメージをもち、美術の学びの意味や広がりについて考えることができる。
	「身近なものを描く」 ○ 絵画	構図や素描を探究し、物体のありのままを捉えたり、愛着、心象などを込めたりして描くことができる。
	「塑像で表す」 ○ 彫刻	粘土の質感や造形することの面白さに気づき、表現したいテーマに合わせて活かすことができる。
	「写真で表す」 ○ 映像メディア表現	写真の構図や大きさ、連作などの表現を通して、被写体の魅力や伝えたい想いを表し、試作や評価を繰り返して理想とする作品に近づけることができる。
2	「身近な素材と立体表現」 ○ 彫刻	身近な物や素材の特性、質感に価値を見出し、魅力を活かして立体作品を作ることができる。
	「版で表す」 ○ 絵画	版の技法や表現を知り、その味わいや表現の多様性に気づいて試したり、活かしたりして絵画の作品を描くことができる。
	「漫画の表現」 ○ 絵画	漫画表現における時間経過の表現や心情の表現などがわかり、主題に沿った描き方を模索してストーリー性がある絵を描くことができる。
3	「アニメーションの手法」 ○ 映像メディア表現	連続する静止画から動画を作成する手法を使い、主題やストーリーの展開を考え、創意工夫して撮影することができる。
	「生活を彩る文様」 ○ デザイン	日用品に装飾をしたり、使いやすくするために工夫したりしてデザインをし、使うものに親しみをもつことができる。